

## 2011 年度 GBIF 日本ノード運営委員会議事要旨

日 時 : 2012 年 3 月 14 日 (金) 14 : 00~16 : 15

場 所 : 情報・システム研究機構東京連絡所会議室

出席者 : 伊藤、奥山、小池、白木澤、菅原、多田内、松浦、三橋、山崎の各委員

欠席者 : 大久保、城石の各委員

ホッパ : 細矢剛 国立科学博物館・植物研究部菌類・藻類研究グループ・グループ長

神保宇嗣 東京大学大学院総合文化研究科

土屋英俊 文部科学省ライフサイエンス課・ゲノム研究企画調整官

松村紘希 文部科学省ライフサイエンス課

佐藤清 NBRP 事務局長

事務局 : 研究推進課

### 1. 報告事項

#### (1) GBIF の動向、(2) 各機関報告

##### ・ 東京大学

伊藤委員より資料 2 に基づき、東京大学の GBIF 活動として、情報の国際標準化、種名チェックリストの作成、生物分布情報の収集・電子化、DNA バーコードシステムについて報告があった。また、日本ノードの動向として、伊藤委員が GBIF 理事国会議の副議長に選任されたことにより、日本ノードマネジャーに伊藤委員に代わって国立科学博物館の細矢剛氏が就任したこと及び GBIF アジアの地域会合を開催し、地域代表を選出した旨の報告があった。

##### ・ 国立科学博物館

松浦委員より資料 1 に基づき、GBIF の動向として、第 3 期には遺伝子情報や生態系情報にも重点をおき、ゲノムにも関与する、及び数値目標を立てず質を重視するとの説明があった。また、活動報告として、標本情報の電子化・データベース構築と発信、自然地名辞書の充実とレッドデータブック掲載種リストの改訂、分類学人材データベースの充実、GBIF 活動に関する国内ワークショップや研究会の開催、GBIF 国際活動について報告があった。委員長より第 2 期は実用化に向けてデータを集積することにまい進したが、第 3 期はデータの質だけではなく、利用方法や分布情報に何を付加していくかなど、データの価値を向上させることを中心的に取り扱う旨の補足説明があった。

##### ・ 国立遺伝学研究所

菅原委員より資料 3 に基づき、国内標本・観測データの GBIF 公開、Darwin Core のバージョンと GBIF の公開ツールの対応表、ポータルサイトを介した情報提供、コミュニティとの連携について報告があった。

### 2. 審議事項

#### (1) NBRP 第 3 期について、(2) 来年度以降の進め方について

山崎委員より資料4に基づき、第3期の申請書について説明があり、交付内定を受けた旨の報告があった。また、菅原委員より、来年度以降の体制は遺伝研のGBIF担当については山崎委員に交代すること、委員長については森脇先生に引き受けていただいた旨の説明があった。また、委員会委員については調整中であるので、委員としてふさわしい方がいる場合にはご連絡をいただきたい旨の依頼があった。

### 3. その他

#### 意見交換

- ・GBIFがどのような活動をし、どのような成果が出て、どのように利用されているのか、もう少し研究者だけでなく、一般の方々にも知ってもらうことが大切である。
- ・まずは、日本のリソースが資源としてどのくらいあるのか、利用できるものがどのくらいあるのか把握する必要がある。また、利用促進のため、ユーザを意識して必要とされている生物の情報を集めることも重要である。
- ・野生生物を取り扱っているNBRPとは緊密な連携も十分考えられるので、まず話し合いの場をもちたい。
- ・遺伝的な研究のために組織や材料を集めたりしている博物館や大学は、メタデータを必要としていたり、ABSとも関係しているので、NBRPという枠組みの中ではその点に重点を置くのもいいだろう。
- ・国の政策として位置づけるために日本における生物多様性情報のガイドラインを策定することが重要ではないか。
- ・委員会として生物多様性情報の整備に関するあり方についての報告書を出すことは検討していきたい。
- ・名古屋プロトコール、愛知ターゲットともに情報やデータが必要であり、生物多様性情報の整備についてより具体的に展開されていくことを期待している。

最後に伊藤委員長より謝辞が述べられ、閉会した。

以 上